

## 「日本学術会議協力学術研究団体」の指定を受けて

会長 西澤眞紀子

日本国際秘書学会は、本年6月に「日本学術会議協力学術研究団体」に指定されましたので、ご報告いたします。実は数年前から申請の準備をしていましたが、折しも行政改革に伴う日本学術会議の制度変更のため、受付がしばらく中断されていました。そのため本年2月になって、新体制のもとでの「日本学術会議協力学術研究団体」（日本学術会議法第28条、日本学術会議会則第34条）の称号付与の申請をしておりましたところ、審査を通過し、指定（称号付与）となったものです（府日会第868号）。

日本学術会議協力学術研究団体に指定されると、日本学術会議との間での意見や情報の交換、刊行物の配布、会議の共催や後援などの連携が図られることとなります。「日本学術会議ニュース・メール」が、本部事務局あてに逐次電子メールにより送られてきています。電子メールアドレスを登録しておられる会員には、原則として全号を転送させていただいていますので、せいぜいご活用ください。

ところで、日本国際秘書学会が日本学術会議協力学術研究団体に指定され、その称号を付与されたことに、深い感慨を覚えます。1992年に設立以来、地道に研究教育活動を続けてきたことから思え

ば当然のことではありますが、これまで秘書研究は非常にマイナーな分野でした。世界中に秘書の交流団体や職業団体などは数多あるものの、秘書を研究対象とする学会は、どこにも類をみない存在であり、一部の心無い人からは「そんなもの研究対象になりますか」とさえいわれていました。しかし、日本国際秘書学会会員は、秘書が私たちの社会において確固とした位置づけをもって機能していることを信じて、研究に勤しみ、教育に力を注いできました。その活動が、謂わば、日本学術会議のお墨付きを得たわけですから、今後の活動の大きな励みになります。

日本国際秘書学会研究年報第9号(2002)の巻頭文「実社会へのフィードバックを使命として」でも述べたように、私たちの学会では、自分たちのためということではなく、自ら進んで、実社会に対しどのように貢献できるかを考えて活動を進めてきました。この機会に私たちの使命を再確認し、日本学術会議協力学術研究団体として日本学術会議とともに将来の日本や国際社会全体のために行動していきたいものです。

参照URL: <http://www.scj.go.jp/>

## 第15回研究大会・通常総会 開催される

### 神戸国際会館9階会議室

去る8月26日(土)、兵庫県神戸市中央区御幸通8-1-6の神戸国際会館9階会議室で、第15回研究大会(森山廣美大会委員長)ならびに2006年度通常会員総会が開かれました。午前中は、会員による3題の個別研究報告が行われ、総会をはさんで午後、ミニシンポジウムが「企業の社会的責任(CSR)と秘書のキャリアコンピテンシー——コーポレートガバナンスとキャリアビルディングの視点から——」をテーマに行われました。今大会では、近年話題となっ

ている企業の社会的責任と法令遵守など、企業の中核に位置している秘書が直面する課題について、秘書、役員、研究者が秘書は、いかに機能すべきかについて真剣に討議を行いました。総会では会員の状況、前年度事業、収支決算、選挙管理委員会の設置が報告され、2006年度事業並びに予算が決定されました。そのあと、神戸国際会館9階の維新號、點心茶室において、すばらしい神戸の夜景を楽しみながら、交流を深めました。



## 第15回研究大会【速報】

# 「企業の社会的責任(CSR)と秘書のキャリアコンピテンシー ——コーポレートガバナンスとキャリアビルディングの視点から——」

\*\*\*\*\* 会長あいさつ(要旨) \*\*\*\*\*

日本国際秘書学会は、本年6月をもって14年目の活動に入り、第15回研究大会をご案内のとおり開催する運びとなりました。今日まで地道に活動を続けてこれらしましたのも、会員はじめ関係各位のご協力のためものと感謝申し上げます。

長く厳しい景気後退の時期を経て、ようやく明るい話題が多くなった産業界ですが、これまで秘書の方がたは、厳しい国際競争にさらされる経営陣を力強く支えてこられました。この間の秘書・秘書部門の精鋭化には目を見張るものがあります。

本学会研究大会においても、昨今の経営補佐にとって重要なテーマを取り上げて秘書の方がたを応援してまいりましたが、第15回研究大会では、「企業の社会的責任(CSR)と秘書のキャリアコンピテンシー——コーポレートガバナンスと秘書のキャリアビルディングの視点から」をテーマにミニシンポジウムを開催することに致しました。常に高い関心が寄せられている「危機管理」も視野に入れながら、秘書の仕事と働き方について問題意識を高め、その知見を研究、教育、実務に資したいと考えております。

今大会も、テーマにふさわしい専門家の方がたを講演者としてお招きすることができました。

末尾ながら、第15回大会の開催に当たり、大森工業株の大森保美代表取締役、特定非営利法人汎太平洋フォーラムの芹田健太郎理事長、(株)情報研究所の中川博士所長から後援賛助金をいただきました。ここに深甚なる感謝の意を表します。

\*\*\*\*\*

研究大会は、まず森山廣美大会委員長が開会宣言したあと、西澤真紀子会長があいさつ、青木雅幸理事の総合司会で始まった。10時10分から11時50分まで3題の研究報告が行われ、昼食並びに国際秘書学会総会をはさんで、午後2時から5時までミニシンポジウム「企業の社会的責任(CSR)と秘書のキャリアコンピテンシー」-コーポレート

ガバナンスとキャリアビルディングの視点から」(司会:西澤真紀子会長)が行われました。

## 研究報告

### 報告Ⅰ 秘書とワーク・ライフ・バランス — 3社の事例研究 —

報告者: 寺村絵里子(川口短期大学)

司会: 加藤晴美(プール学院大学短期大学部)

国の男女共同参画政策にもかかわらず、秘書業務は特性上フルタイム勤務が基本とされ、身分の多様化に比して柔軟な労働形態がまだ進まない職種ではないか。成功事例の中から3社の事例を分析し、WLB(ワーク・ライフ・バランス)を可能とする条件を考えた。報告者は「秘書がWLBを実現するための条件として①会社でのCSR活動の一環によるWLB施策の充実②秘書業務の複数体制・共有化③テレワークの活用④ライフステージに合わせた労働形態の流動性」が必要であると提言する。



### 報告Ⅱ キャリア教育 — 大学生の職業的不安についての考察から —

報告者: 森山廣美(四天王寺国際仏教大学短期大学部)

司会: 青木雅幸(武蔵野学院大学)

大学生の職業的不安の実態を基に、大学におけるキャリア教育について就労支援の側面から考察した。実態調査から、職業的不安は①職業選択や就職に関する情報不足から来る職業情報不安②職業選択・決定に関する職業選択不安が特に高かった。大学におけるキャリア教育は、教職員全員が大学全体の問題として取り組む問題であり、自分の人生を主体的に考える責任の再確認と必要な意欲、態度、能力を育てる教育が必要である。今後も大学におけるキャリア教育の重要性が高まるので、まだまだ課題が



山積している。

### 報告Ⅲ 英文ビジネスEメール教育における有効な指導方法の考察

報告者: 島村東世子(有限会社イー・グローブ)

司会: 福田洋子広(神戸松蔭女子学院大学短期大学部)

国際ビジネスの場では今やコレポンにかかわって、英文ビジネスEメールが主流となった。報告者は社内教育で実施した研修事例を基に、英文ビジネスEメール・ライティングの有効な指導内容・方法を考察した。レベルチェックテストで、①英文Eメールの文体と形式②英文法③言葉



の使い方の能力④異文化理解への指導が必要であるとした上で、誤用チェックの9項目を設定し、その指導方法としてひな型①問い合わせ②依頼③発注④苦情⑤お詫び⑥各返信)の使用を提案した。

(文責 編集者)

## ミニ・シンポジウム

### 講演Ⅰ「企業の社会的責任と法令遵守」

土井純雄氏

(広島修道大学法科大学院教授、元イーライリリー常勤監査役)



### 講演Ⅱ「企業の社会的責任と顧客満足」

加藤純氏

(松下電器産業株式会社上席理事・秘書室長)



### 講演Ⅲ「企業の社会的責任と人材育成」

平山誠一郎氏

(株式会社大丸執行役員・管理本部人事部長)



【講演概要】土井氏は、世界的な大手製薬企業の日本人での役員経験を基に、アメリカのエンロン企業の不祥事の例を引いて報告を進めた。日本では1960年代の公害問題、70年代の石油危機に端を発する売り惜しみ・買い占め問題、80年代の価格カルテル、粉飾決算、2000年代食品偽装、リコール隠しといった反社会的な行為に対する批判が続いており、企業経営のあり方を問うている。今日的な企業経営の3つのキーワードとして①コーポレートガバナンス②コンプライアンス③コーポレート・ソーシャル・レスポンスを挙げた。報告者は②を「企業倫理」と訳し、広く倫理や道徳を含む社会的規範を遵守することをその概念と説明した。続いて、企業の社会的責任に

触れ、それが企業のサステナビリティ(持続可能性)にかかわる課題であると述べた。現在、流行語となっているステークホルダーから企業の社会的責任が注目を浴びているかというテーマに及んだ。アメリカの企業はブルーリボンカンパニーに指名されることに熱心である。それは社会的な評価が高いからであって、ブランド価値を高めることにもなる。企業の社会的責任を評価する基準として社会的責任投資(SRI)がある。最後に「企業は1つの責任を果たすだけでなく、もっと広範な責任を果たしていくことになった」と締めくくった。

加藤氏は、松下幸之助氏が1917年に創業、1932年に真の使命を知ったとし、「産業人たるものの真の使命は事業を通じて社会に貢献すること」→「貢献(満足)なくして企業の責任は果たせない」との言葉を紹介した。「企業は社会の公器」の理念と①環境革新②社会価値の高い商品開発③スーパー正直④調達先とのパートナーシップ⑤企業市民活動⑥優れた職場環境の実現の6つの方向性を説明した。さらに、CSRの仕組み、顧客満足の理念を挙げ、それらを「暖簾」という古い言葉で表現した。最後に、いま企業の良心の発露が問われると中村邦夫会長の経営を強調した。

平山氏は、大丸の経営と業界の展望を最初に説明した。次に、企業の社会的責任をめぐる状況に論を進め、ここでは、企業にとってリスクマネジメントと企業の存在価値を高めていく2つの視点があるとした。企業は、みずからを統制する主体性と自主性、変化に対応するスピード・決断力・実践力が求められ、働く人は変化を読み取り、組織にフードバック、創意工夫の実践が必要であるとした。そうした成島戦略を推進するのは人材であるとし、大丸の人材育成の考え方やキャリア形成を通じた人の育成制度について語った。

## 質疑応答

### CSRを秘書が生かすために求められること

司会(西澤) まず土井さんへの質問からお答えください。

土井 私への質問は2つある。1つは「インターネットやブルーリボンカンパニーズを見なくても一般消費者が優良だと認める方法はないのか」。それは、口コミ、マスコミによるうわさがある。2つ目は「CSRはすべての企業に必要なだろうか」。CSRは、企業が存続していくためのいろいろなファクターを克服していくことだから、企業規模はかわりない。ただ、消費財と生産財を扱っている業種では異なる。実践しているCSRをフォーチュンや日経が評価する。

加藤 「秘書に配属するために採用するのか。適性判断で悩むことはないか」。当社では秘書として採用するのではない。逆に松下電器へ秘書を目指して入社する人はいない。だから、みずからの適性に悩む人がいる。いま、秘書として専門に勉強してきた人を採用してもらえないかと人事と話しているところだ。2つ目の質問は「先ほ



ど配布したパナソニックリポートは、どんな方を対象に配布しているのか」。不勉強で詳しいことはわからないが、地方公共団体、政府機関、マスコミ、そういったところだと思う。

土井 言い忘れたが、いまほどの企業もインターネットのホームページに社会環境報告書を掲載している。ステークホルダーの皆さんが対象になっていると思う。

平山 私も2つ質問をもらった。1つは「学生、若者の常識を社会で通用する常識に切りかえていく上で最も大切なのは何か」。これは難しい。もう1つの質問に答える。実は私も自店で買う機会が減っているが、いま経営内部でも語られているのは、いまの百貨店はおもしろくない。発見、感動とかエキサイティングなキーワードに百貨店がどう取り組んでいくか。例えば低価格は百貨店に向いていないから高級

ゾーンにしぼることは、消費者が求めることを百貨店が切り捨てていることになる。難しい質問だが、確かに若者のコモンセンスはひどいと思う。多様化を認める必要もある。その一方で自分はどう対応するかを学校教育でも考えることが必要だと思う。社会の深さを感じるような本を読んでほしい。社会の知恵を学んでほしい。

「秘書がCSRを学ぶことは、経営者の暴走を食いとめる、経営者のマイナスの生産性を抑止する。貴重な人的資源を最有効に活用してほしいという役割が秘書にあるのではないか」。私は秘書がわからないといっているのに、こういう質問をするのは罪ですが、経営者の暴走を食いとめるのは秘書の仕事ではない。それは、ガバナンスの問題であり、取締役会、監査役、株主の機能である。

ただ、2年間奥田の財界活動のスタッフをした経験では、経営者が秘書との関係の中で一番信頼ができると、本音を一番言ってくれるのだと思う。経営者は孤独だから、コミュニケーションをとりたい。その対象として秘書がいる。幾ら経営者といっても、万能ではないから、サゼスチョン、ヒントがほしいときに秘書に聞く。そういうときに、方向指示とサゼスチョンができるか。女性の秘書、経営者はある意味子ども的な存在だから、娘であったり、あるとき母であったりするのかな。そういう人をあるところまで育てるのは私たちの仕事だが、経営直前の人材は育てられない。場を与えてやらせてみて、試すしかない。私は執行役員と経営トップは明らかに資質が違う。そういう原石をどう発見するか、育てるのではなくて発見するか。

トップ経営が出現したとき、しっかりした情報を伝えることができるか、このコミュニケーション能力が極めて大事だと思う。一方、その力をこえないように、みずからを律することができるのかという能力も重要なコンピテンシーだと思う。

**司会** 最後に、お一人一問ずつお尋ねします。土井さん、サステナビリティのことをおっしゃったのですが、コンサルタントはよくCSRは経営戦略だといえます。この点はどのようにお考えですか。

**土井** CSRは経営戦略ということだけではない。それだけなら、いい会社に見せるだけになり、化けの皮がはがれる。

**司会** 加藤さん、顧客満足を秘書の立場で実践すると、どういうことになるのでしょうか。

**加藤** 難しい質問。後ろにボスがいるわけだから、秘書は強い立場になってしまふ。常に自戒しなければいけない存在だと思う。道歩く人すべてがお客様だという姿勢を常に持ち続けることだと思う。

**司会** 平山さん、自発的な人材育成のための評価システムについて、もう少し詳しくお話しください。

**平山** 自分で自分をみがくために直結する評価システムはない。ただ、現状はどうだというアセスメント体制を充実している。例えば秘書部という分野で使う、育成、成長という場面で使いたいと思っている。

**司会** 参加者の研究・教育・実践に大いに役に立つシンポジウムになったと思います。ありがとうございました。

(文責 編集者)

## 2006(平成18)年度 通常会員総会 議事録

- 日時 2006(平成18)年8月26日(土)13:00から13:40
- 場所 神戸国際会館 7・8会議室
- 会議の目的 <報告事項>  
「日本学術会議協力学術研究団体」の資格について  
会員の状況について  
2005(平成17)年度事業報告並びに収支決算報告について  
<決議事項>  
議案1 2006(平成18)年度事業計画並びに収支予算について  
議案2 研究年報「編集・投稿規定」の一部改正について  
<連絡事項>  
役員改選のための選挙について  
会員情報の変更、名簿について

### 開会

#### ・議長

会則第14条6項により会長西澤真紀子が議長に指名された。

#### ・成立要件

出席者35名、委任状30名 計66名があり、会則第14条5項に規定される会員通常総会の成立要件を満たすとして、議長が開会を宣言した。

会員の種類	2005年度通常総会時	2006年通常総会時
名誉会員	7名	7名
個人会員	90名	96名
グループ会員 (2グループ)	6名	(2グループ) 6名
賛助会員	—	—
会員総数	103名	109名

### 報告事項

- 「日本学術会議協力学術研究団体」について  
日本国際秘書学会は、日本学術会議の審査を経て2006年6月に「日本学術会議協力学術研究団体」の指定を受けたことが報告された。
- 会員の状況について
  - 会員数
  - 入退会等の状況(2006.08.26 現在)
    - 入会者:個人9名
    - 退会者:個人3名
  - 年会費の長期滞納者  
2会員の年会費が3年以上滞納されており、督促にも応答がないことが報告された。本年度の状況によっては理事会で除籍(除名ではなく名簿から削除すること)が検討される。
- 2005(平成17)年度事業報告ならびに収支決算について
  - 2005(平成17)年度事業報告が、原案のとおり承認された(別紙1)。
  - 2005(平成17)年度収支決算報告が、原案のとおり承認された(資料2,3)。この際、河村眞澄監事から適正に会計処理されていることが報告され(監査報告書:別紙4,5)、極めて儉約されていることが会計書類から読み取れると付言された。

## 決議事項

### 議案1:2006(平成 18)年度事業計画ならびに収支予算について

- 1) 2006(平成18)年度事業計画が、原案(別紙6)のとおり承認された。
- 2) 2006(平成 18)年度収支予算は、繰越金が蓄積されてきたため、会員が研究大会、支部会に参加する費用を軽減できるよう、予算案では会議会費を増額したこと、年会費の減額は収入の減少が著しくなりすぎるため今回は見送りとすることについて会長から説明があり、原案(別紙7)のとおり決議された。

### 議案2:研究年報「編集・投稿規定」の一部改正について

研究年報に論文等を投稿・掲載した会員に対し、学会における活動を誠実に継続し、読者からの照会への説明責任を果たすため、「編集・投稿規定」に倫理規定をおくこととし、下記の理事会案のとおり決議された。また、同規定全文中にある「著者」という文言が論文集には一般的でない表現であるため、この改正の機会に「執筆者」と置換え整備することが決議された。

●全条項の文言のうち「著者」を「執筆者」と改め、次の2条項を追加する。

●3の2. 本研究年報への投稿者は、本学会における活動を誠実に継続することにより自身の研究を深め、本学会の向上、会員の研鑽、社会の発展に貢献する責任を有する。

●11. 本研究年報に論文等が掲載された会員は、掲載論文等に対し読者から照会があった場合には、本学会会員として誠実に説明責任を果たさなければならない。

## 連絡事項

1. 役員改選のための選挙について  
2007年度は役員改選の年にあたるため、2006年度内に選挙を実施する。会長から選挙管理規則(別紙8)が示され、協力を要請された。
2. 会員情報の変更、名簿について  
会員名簿に記載している情報に変更があった場合、また名簿に記載したくない事項がある場合は、速やかに担当理事へ申し出てほしい旨、要請があった。会員名簿は、総会後に更新の上郵送で配付される予定である。

## 閉会

議長により2006年度会員通常総会の終了が宣言された後、研究大会の一般参加者、ミニシンポジウムの講演者らを交えて記念写真撮影が行われ、同総会を散会した。

以上

上記のとおり相違ありません。

2006年8月26日

議事録署名人:

会長(議長) 西澤真紀子 ㊟

副会長 小林 通 ㊟

副会長 北垣日出子 ㊟

## 資料1

### 2005(平成17)年度事業報告

1. 事業年度  
2005(平成17)年6月1日～2006(平成18)年5月31日  
中部支部 1回開催  
西日本支部 2回開催
2. 事業概要  
2005(平成17)年8月1日 研究年報第12号発行  
2005(平成17)年8月27日 第14回研究大会開催  
大会開催担当支部:東日本支部  
大会委員長:小林 通  
2005(平成17)年10月25日 ニュースレターNo19発行
3. 支部会・ワークショップ  
東日本支部 1回開催
4. 役員会  
理事会 9回開催
5. 各種委員会  
研究大会準備委員会 2回開催  
研究年報編集委員会 1回開催



## 資料2

## 2005年(平成17)年度一般会計収支決算書

(2005(平成17)年6月1日～2006(平成18)年5月31日)

単位:円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	938,117	研究年報発行費	340,113
会員年会費	630,500	(印刷費)	271,740)
(個人会員)	610,500)	(諸経費)	6,195)
(グループ会員)	20,000)	(郵送費)	62,178)
各支部会議会合費	127,500	通信費	57,760
雑収入	1,440	消耗品費	10,162
預貯金利息	9	会議会合費	181,907
		手数料	8,085
		旅費交通費	18,840
		交際費	36,104
		研究大会補助	57,256
		次年度繰越金	987,339
		(銀行預金)	811,514)
		(郵便振替)	530)
		(現金)	37,286)
		(各支部委託金)	138,009)
合計	1,697,566	合計	1,697,566

注)第14回研究大会会計報告は含まれていない。

## 資料3

## 2005年(平成17)年度特別会計収支決算書

(第14回研究大会)

単位:円

収入の部		支出の部	
仮受金	150,000	仮受金返済	150,000
当日会費	335,400	会議・会合費	180,373
寄付金	80,000	印刷費・はがき代	103,625
研究大会補助	57,256	通信・交通費	27,860
		消耗品費	7,668
		講師礼金	153,130
合計	622,656	合計	622,656

## 監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2005(平成17)年6月1日から2006(平成18)年5月31日までの期間の、関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書は正確であることを認めます。

2006年5月31日

監事 島田真美 (印)  
監事 河村真澄 (印)

## 資料6

## 2006(平成18)年度事業計画

- |   |   |                      |
|---|---|----------------------|
| 1. 事業年度<br>2006(平成18)年6月1日～2007(平成19)年5月31日   | 3. 支部会・ワークショップ<br>各支部                         | 各2回程度開催              |
| 2. 事業概要<br>2006(平成18)年8月1日 研究年報第13号発行<br>2006(平成18)年8月26日 第15回研究大会開催<br>大会開催担当:西日本支部<br>大会委員長:森山廣美<br>2006(平成18)年10月25日 ニュースレターNo.20 発行<br>2007(平成19)年5月25日 ニュースレターNo.21 発行<br>2007(平成19)年5月 役員改選 | 4. 役員会<br>理事会兼役員会                             | 数回開催                 |
|   | 5. 各種委員会<br>研究大会準備委員会<br>研究年報編集委員会<br>選挙管理委員会 | 随時開催<br>随時開催<br>随時開催 |

## 資料7

## 2006年(平成18)年度一般会計収支予算

(2006(平成18)年6月1日～2007(平成19)年5月31日)

収入の部			支出の部		
	前年度実績	予算		前年度実績	予算
前年度繰越金	938,117	987,339	研究年報発行費	340,113	400,000
会員年会費	630,500	650,000	通信費	57,760	75,000
各支部会議会合費	127,500	125,000	消耗品費	10,162	15,000
雑収入	1,440	6,000	会議会合費	181,907	230,000
			手数料	8,085	8,000
			旅費交通費	18,840	50,000
			交際費	36,104	40,000
			研究大会補助	57,256	100,000
			予備費(次年度繰越金)	987,339	850,339
合計		1768,339	合計		1768,339

## 資料8

## 日本国際秘書学会役員選挙管理規則

2000(平成12)年8月26日制定

(この規則の目的)

日本国際秘書学会の理事および監事(以下、役員)を公正に選出するため、会則第10条第2項の規定により、この選挙管理規則を定める。

(選挙事務の管理および監督)

日本国際秘書学会役員選挙については、選挙管理委員会が管理する。

(選挙管理委員会)

選挙管理委員会は、東日本・中部・西日本の各支部から各1名ずつ選ばれた委員3名をもって構成する。

2 委員は、各支部の議決による指名に基づいて、会長が任命する。

3 委員長は、委員の互選によって決定する。

4 委員は、次期立候補者またはその推薦人となることのできない。

(選挙権者および被選挙権者の資格)

役員選挙の選挙権者および被選挙権者の資格は、選挙日まで2年以上本会会員であり、年会費を滞納していないことを条件とする。

(選挙の期日)

役員任期満了による選挙は、役員任期が終わる日の2ヶ月以内に行う。ただし、欠員が生じたときの補欠選挙は、選挙期間を短縮することができる。

(立候補およびその推薦)

役員に立候補する者は、会員3名の推薦を受け、所定様式の推薦書を添えて、選挙日の1ヶ月前までに選挙管理委員会に届けなければならない。

2 3名の推薦者のうち1名以上は、所属する支部の会員であることを要する。

3 会員は、立候補者2名以内を推薦することができる。ただし、選挙管理委員は推薦することができない。

(推薦理事)

学会運営の継続性を担保するため、理事会は、任期内の理事を次期理事に特別に推薦することができる。

理事会から次期理事に特別推薦された理事は、所属支部の会員による推薦を必要としない。

(立候補者が定員に満たないとき)

立候補者が定員に満たないときは、立候補者の全員を当選とする。

立候補届出の締切後においても立候補者が著しく少ない場合、選挙管理委員長は、各支部幹事へ追加候補者の推薦を申し入れることができる。

(選挙の方法)

選挙の方法は、投票により行う。

(5名連記による一人1票)

投票は一人1票とし、選挙管理委員会から送付された投票用紙に立候補者5名の氏名を連記して、投票者名を記入しない投票用中封筒に入れ、これを返信用封筒に入れて選挙管理委員会あてに送付する。

5名を超えて連記した票、および同一候補者名を重複記入した票は、無効とする。

回収された投票用紙は、選挙管理委員会が集計し、改選が行われる総会において選挙管理委員長が、その結果を報告する。

(当選者)

改選の行われる総会において、選挙管理委員長から報告された投票結果に基づき、獲得票の多い順に、理事10名以内、監事若干名を各々当選者とし、選任する。

(附則)

この規則は、2004(平成12)年8月26日から施行する。

1 この規則は、会則第11条1項の変更(2004(平成16)年4月1日施行)にともなう措置として、2004(平成16)年4月1日から施行する。



## 支部だより

### 【東日本支部】 支部長 鐘ヶ江弓子

#### 「先端オフィス見学会」

日時 平成18年1月14日(土)午後

見学先 ソニーファシリティマネジメント株式会社(東京・GC大崎)

講師 勝田忠生氏 同社顧問(当時、現日本レゾナンス常任監査役)

東日本支部では東京都品川区ゲートシティ大崎ウェスタワーにあるソニーファシリティマネジメント(株)の見学会を平成18年1月14日午後2時間余にわたり実施いたしました。昨年8月日本大学国際関係学部(三島)にて行われた日本国際秘書学会全国大会のシンポジウムで講演をいただきました同社顧問(当時)の勝田忠生氏に案内と解説をしていただきました。

同社オフィスは、NHKの番組「経済最前線」にも取り上げられるほど、機能と先進性を兼ね備えた、北欧スタイルの快適な美しいものとなっており、オフィスリニューアルのコンセプトについてのご説明に大変に興味深いものがありました。社長室を除いて、社員の机はすべて自席を持たない「フリーアドレス」となっており、フロア全体を一望できるほど整然とした机・椅子・個人々のロッカーを拝見しただけで、旧来山積した書類の80%を破棄することが可能となったという説明に納得させられるものがありました。

中心に位置する「フリーアドレス」の机の機能美とは対照的に、オフィスの一角には安らぎの場があり、ひととき軽音楽を聴きながらドリンクを飲み、リフレッシュする場所を設けています。照明は間接照明が中心で、会議室はオフィスというよりもリビングといったデザインで、和やかな気持ちで打ち合わせができる雰囲気作りがなされています。

もちろんオフィスとしての機能はすぐれ、とくにセキュリティについて

はソニー開発のFeliCaカード(非接触式ICカード)利用により、出入室はもちろん、書類のプリントアウトにいたるまで本人確認がなければならないシステムが導入されています。

また、国内外を問わずテレビ会議のできる施設、「フリーアドレス」の机以外で集中した仕事ができるような個別の空間は働く人の立場を十分に尊重しながらも、機能的で経済的なこれからのオフィスのあり方を具現化させた模範モデルであり、日本国際秘書学会の参加会員一同「目から鱗」の見学会となりました。

オフィス見学を終え、会議室にて勝田氏よりソニーファシリティマネジメント株式会社の概要と業務内容についての説明を、特に「オフィスで過ごす社員が、日々、快適に仕事ができるような環境をいかに機能的かつ効率的に提供できるか」をテーマにお話を頂き、またソニー学園湘北短期大学を例にFeliCa(ソニー開発非接触ICカードの技術方式)を利用した先進的キャンパスインフラシステムの構築と導入について同社ソリューション部課長小林 隆氏より詳細に解説をいただきました。

土曜日(休日)にも関わらず、わざわざ会員のためにオフィス見学を快くお受けいただきました、ソニーファシリティマネジメント株式会社の皆様に深く感謝いたします。

なお、同社の所在地と電話番号・URLは以下のとおりです。

〒141-0032 品川区大崎 1-11-1 ゲートシティ大崎ウェスタワー

Tel 03(5435)3840 <http://www.sonyfin.co.jp>



## 【中部支部】 支部長 樺ますみ

日時 2006年1月21日(土)

会場 一宮女子短期大学 秘書実務室

講師 藤戸京子氏(元毎日新聞社名古屋支社秘書)

### (第一部)

毎日新聞社名古屋支社で12名の代表の秘書を経験した藤戸京子さんを講師に招いて、秘書時代の経験、秘書学のお話を聞きました。藤戸さんは、著書も出しておられ、現在秘書学専攻の学生の指導に当たっておられる。マスコミらしく変化に富んだお話に、非会員を含めさまざまな上司に仕える点で、事務職や営業職の方にも共通する話とあって、皆さん熱心に聞いていた。藤戸さんは6月から本会会員になりました。

### (第二部)

東京で行われたキャリアデザイン課程の講習会に参加した河村会員からの報告を聞きました。学生用のワークシートを実際に書いてみたり、単位化される意義について各校の事情を紹介し合いました。このあと、大阪から参加した山城紀之会員を囲んで、秘書業務について話がはずみました。

## 【西日本支部】 支部長 山城紀之

### 「秘書のキャリアデザインⅢ—リッツ・カールトンのホスピタリティ」

日時 2006年4月22日(土)午後

場所 神戸大学大阪凌霜クラブ セミナールーム

講師 島崎まり氏

(ザ・リッツ・カールトン大阪 クラブ・リレーションズ マネージャー)

### リッツカールトンの話に花が咲き

西日本支部会を4月22日(土)午後1時半から大阪駅前の神戸大学大阪凌霜クラブで、ゲストにザ・リッツ・カールトン大阪 クラブ・リレーションズ マネージャーの島崎まり氏を迎えて、世界でも最高といわれるそのサービスが日々どのように生み出されているのか、その一端をうかがいました。そのあと、会場を大阪マルビルのトップサーティにかえ、さらに交流を深めました。



